

王岳南尾根と櫛形山山行報告

【山城】 御坂

【日時】 9月30日（土）～10月1日（日）

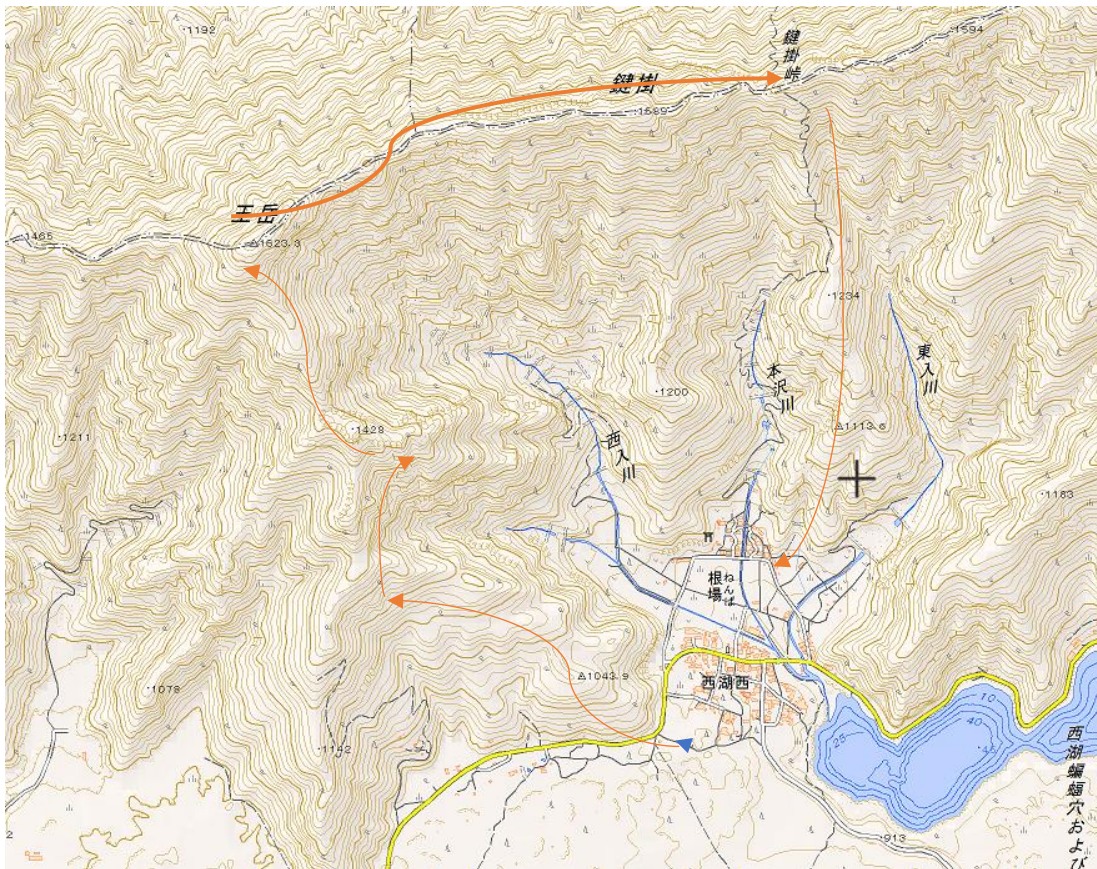
【コース】

1日目 西湖いやしの里～バリエーションルート～創研山～王岳～鍵掛峠～いやしの里

2日目 本栖湖キャンプ場⇒丸山林道登山口～櫛形山（ピストン）

【天候】 両日共 晴れ

【参加者】 C L 柘植、S L 小倉、鶴田（30日のみ）、齋藤（健）、齋藤一（記録）



《山行報告》

〔一日目〕

まだまだ温かい朝に千葉駅北口集合。小倉車にサイトウふたりを載せ鶴田車合流地点、「西湖いやしの里」へ向かう。現地は根場（ねんば）にある古民家博物館と土産物屋が並ぶ観光施設で、駐車場が広い為助かる。近隣には来ていたがこんな施設があったのを知らなかった。登山準備を始めていたら施設職員に登山客は端のスペースへ・・・と移動を命じられる。登山者は金を落とさないのので至極当たり前である。が、王岳南尾根はこの端から歩き出すので止めるなら駐車場最西端へ。駐車場から南の道沿いに上がれるルートを探し出す。おっ、ココから登れるぞ、と道なき山に踏み込んで、ガサガサ杉林を歩き出す。



【駐車場端から出発 8:52】



【ここから登れるぞとガサガサ】

バリエーションルートなので決まった道は存在しない。ルートファインディングを試される山行である。ここ数年、GPSで位置確認は出来るがやはり現場で知る事も多い。

「筆者君、写真撮ってる？」とCLが声を掛けてくる。ハイ、撮ってますヨ！全て後ろ姿ですけど……。じいちゃん達（先輩方）の速いこと！前からのショットを撮りたくても出られないのである。急登ではないが、足元を見ながら息を切らせて登っているの、まごまごしていると離されてしまう。伐採した枝木がフカフカして歩きにくい。元気がスピードに少々送れるT仙人を底うフリをして何とか自分はずついて行く。植生が変わり歩きやすくなった頃、休憩の声。やれやれ。55歳を数えても先輩に比べ、まだまだひよっこなのだ。



【速いですよと声を掛けたくなる】



【やっと休憩 9:35】

高度を増すごとに曇りから好転してきた天候が少々蒸し暑く感じられる頃、創研山山頂までもう少し。岩を右手から回り込むように上がり急斜面を木にしがみ付きながら登るのだ。



【創研山までもう少し】



【上からのショット。土が柔らかく踏ん張れない】

コレを上がり切れば尾根に出る。ここまでのルートには登山道の淡い道が出来ていて、崩れ止めの整備もして有り歩き易い。間もなく 1428mの創研山テラスに出た。10:40



ご覧あれ！この視界。朝霧方面まで青木ヶ原樹海が一望。眼前の富士は頭と裾野しか見えないが、ここに立つと富士吉田方面からのパノラミック撮影をしたくなるのだ。

一息ついて、更に上を目指そう。道が細くなり山側斜面の笹がうるさく成りはじめたら、王岳に至る稜線。山頂まで僅かだ。我々以外に8人組と単独二人が山頂を賑わし、意外に人気がある。富士を展望するには絶好の場所であるので無理はない。最後の行動食を詰め込み、稜線を東へと辿り鍵掛から南尾根を下ろうと歩き出す。稜線の歩きは全員の足並みが揃い、歩き易いのも幸いして鍵掛尾根の分岐に到着。ここから斜面を下ろうとルートを探す。



【王岳山頂に着きました 11:40】 【鍵掛の表記は有るのだが・・・12:35】

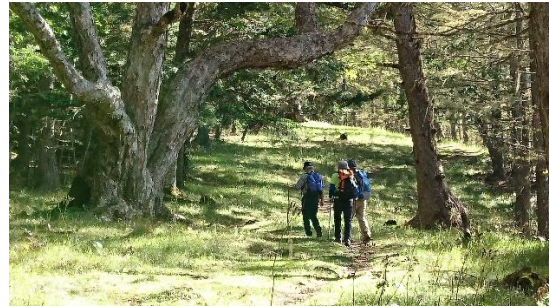
鍵掛にいるのは確かだが、ルートが見つからない。下り斜面が大きく左右に広がり、尾根の特定が出来ないのだ。ココだと断言できる場所が見つからず諦めた。仕方なく鍵掛峠から本沢川に沿う登山道を使う事と成った。楽な反面アドベンチャーが薄れるのだが、峠からこの尾根を見るとかなりの急斜面！ あれを降りるのはひと苦労だろうと全員の意見。

ラスト休憩から一気に下山。全員速い事速い事。何を急ぐんだと訝るのだが、はたと気付く。お互いを鏝競り合っているのだ。新歓の宴会時間には早すぎるからと言いながら、アカマツの林をグングン降りて行く。「そんなに急いだら怪我しますよ」の言葉は飲み込み、整備された道を進むと、明るい日差しの古民家村へ到着。蕎麦屋、土産物屋の脇をかすめ、外人の団体バスが駐車場へ入ってくる頃、クルマに戻ったのが14時。西湖いずみの湯で汗を流す。

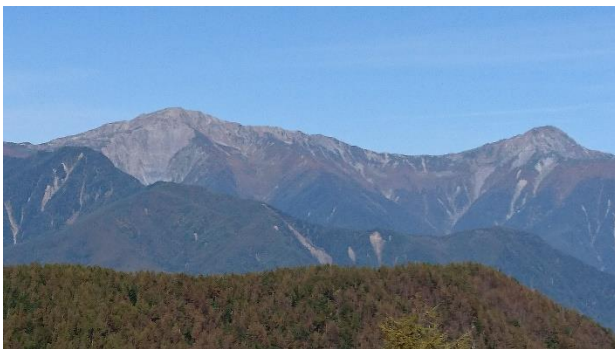
この後、新歓キャンプへ合流。

〔二日目〕

新歓幹事の用意してくれた朝食を腹へ詰め込み、ランチ用のサンドイッチも作れる程の準備をして下さった方々に、ここで御礼申し上げます。挨拶もろくに出来ぬまま出発した事、お許してください。7時にはキャンプ場を後にしたのは、この日に登る櫛形山まで1時間半掛かるのです。富士川町から丸山林道を経て、1866mの駐車場に8時半到着です。



昨日とうって変わって空は高く、心地よい山の空気は少々寒い12,5℃。鹿の防御ネットを二つ超えたら南アルプ北部を一望できる展望台に立てます。時間を忘れ見入ります。



【左から間ノ岳、北岳 8:54】

アカマツの木々の中、防火林の役目として尾根は広く整備されており、木漏れ陽の道歩きと成りました。富士の展望も良いはずなのですがこの日も頭しか出してはくれません。



散策道周回で予定しておりましたが、前日の高速下り交通量を考えると、早急に帰ろうと意見が一致。櫛形山山頂を9時半には後とし、駐車場に戻り帰葉。千葉駅14時過ぎには解散しました。前日のワクワクするバリハイコースと櫛形山への大展望を選定して頂きましたCL並びに楽しく遊んでくれました先輩方に御礼申し上げます。 どんどはれ。